

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(さくらユニット)

事業所番号	2793100021		
法人名	セントケア西日本株式会社		
事業所名	セントケアホームいくえ		
所在地	大阪市旭区生江2丁目11-15		
自己評価作成日	平成30年8月20日	評価結果市町村受理日	平成30年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	平成30年8月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居されお客様、ご家族様に安心して生活できる様に日々のケアに努めています。また医療との連携を密に計り、変化、変更点があれば直ぐに報告するようにしています。月に1度のご家族様にも参加して頂けるようにレクリエーションを開催し一緒に楽しんで頂き日常生活に楽しんで頂けたらと思います。お客様それぞれの特徴を掴み出来ることまた興味があることを把握して日常の活動時間中に楽しんで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市街地の一角にある。最寄りの駅より徒歩では少し距離がある。その反面菖蒲園、城北公園、近隣の小公園と運動を兼ねての散策場所があり、環境に恵まれている。施設は1ユニット(しょうぶ)で共用デイサービス(認知症・利用者3人)が運営され、利用者の利益と事業所の社会貢献ということで双方に有益な事業展開がされている。経営方針に「地域で一番明るい楽しいホームを目指します」を掲げ、職員はチームワークよく、介護サービスに努めている。家族にも呼びかけイベント(夏祭り、レクリエーションとしての流しそうめん、かき氷など)を企画し、利用者及び家族にも好評であった。今後も利用者および家族の希望や職員のアイデアを基に、毎日の生活の中に変化を持たせるよう創意工夫を凝らし、楽しいホームの構築を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営方針書に「地域で一番明るく楽しいホームを目指します」と明記し、毎日職員で朝、夕礼時に朗読しています。	事業所の理念を毎日、朝礼・夕礼の申し送り時に唱和し、全職員は共有し介護サービス実践に繋げている。職員以外の訪問者・関係者の視野に入るように事業所案内冊子への掲載や、所内・リビングなどに掲示することを考案中である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加している。	毎年1回開催の当地域主催行事の「いくえ元氣祭り」に参加し出店(フランクフルト)もしている。自治会にも加入し回覧板も閲覧している。しかし、近隣住民との交流にまでには至っていない。事業所訪問は利用者家族に限定されている。	法人内異動による管理者の交代後2カ月である。自治会役員への挨拶も含め積極的人的交流の思いは強い。近隣の公的機関(保育園、学校)や近隣住民へ働きかけるなど地域の一員としての交流拡大を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は行っていたが現在は行っていない	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度実施している。地域包括、ご家族様が参加され意見交換、アドバイスを頂いています。	法的規約の定例会として年6回の会合は厳守され記録に残し公表もしている。ただし参加メンバーは事業所関係者に偏り、第三者的立場の人が地域包括の人のみである。会議内容も事業所内活動報告が主となっている。	上記(2)にも関係するが自治会役員(自治会長・民生委員・婦人会役員等)、知見者、等へ参加協力依頼と共に会議内容も報告・連絡・評価・提案などを協議し会議時間の有効活用と内容のレベルアップを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	旭区のグループホーム連絡会に参加をして頂き意見を頂いている。	身体拘束ゼロは職員間では事業所内研修や会議で話し合い周知している。日中はリビングで過ごすことが多いが、夜間のみ家族のたつての要請でセンサーマットを使用する人がいる。事業所として家族へのインフォームド・コンセント(説明・同意)の在り方書類記載等今後の課題と受け止めている。2ユニット間は事務所を中央に廊下を往来できハード面での閉塞感はない	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行いません。 2か月に一度身体拘束廃止会議を行い我々の考えをお伝えしています。	身体拘束ゼロは職員間では事業所内研修や会議で話し合い周知している。しかし、家族のための要請でセンサーマットの利用者もいる。ホームは2階に位置するが2ユニット間は事務所を中央に廊下を往来でき閉塞感はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、虐待防止の研修を行っている。 アザ、傷を発見した場合は原因を追究し再発防止に努めています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	あまり学ぶ機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書、契約書をご説明したうえで署名、捺印を頂いている。 内容に変更があれば、変更同意書を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に一回家族会議を開催し意見交換をしている。運営推進会議の議事録は毎回ご家族様に郵送している。	参加者は固定傾向にあるが隔月の運営推進会議後の家族会や面会時、電話連絡時などで意見や希望を聞いている。会議の議題として重症化するケースの食事につき説明をした折、直近例では、家族も希望されソフト食を導入するなど運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度フロア別ミーティングを行いスタッフからの意見をきいています。	月1回のフロア会議や定例の研修会時に、あるいは人事考課の関係で年に2, 3回の個人面談などの機会を通して職員の意見や提案を管理者は聞き事業所運営に反映させている。コミュニケーションがよく意思疎通は良好との職員の声である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	雇用契約を更新行い、その際に個別での面談を行い、向上心を持っていただける様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月全体会議を行い研修を通してスキルアップを図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	旭区のグループホーム連絡会を3か月に1度開催している。その際所長以外のリーダーにも参加して意見交換に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様と面談を行い要望等を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にお会いする機会を持ち不安を解消できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にアセスメントを行い、課題を抽出してケアプランを暫定的に作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等お手伝いをして頂くことでホーム内で役割を持っていただける様に支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員とご家族様と密にコミュニケーションをとりご本人様を支えられるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様への協力頂きながら馴染みの方々との関係の継続につとめている。	過去には梅田方面に出かけることを、楽しみにしていた人もいたが高齢化(ADL低下)が進み、天候の良い日に近隣公園への散歩、事業所周辺のドライブをしている。理・美容も出張業者にカット、毛染め、パーマを依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフがフロアを盛り上げお客様同士が良好な関係を気づける様につとめています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後のご家族様と関係は気づけていない		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	メモリーブックやご家族様からの情報をもとにご本人様の意向を把握するように努めている。	入居時のメモリーブック(生活歴の記載)、利用者の日ごろの言動や観察を基に思いや意向を把握するようにしているが、困難な場合には家族より情報収集し本人本位になるよう検討し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	メモリーブックやご家族様からの情報をもとにご本人様の意向を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	メモリーブックやご家族様からの情報をもとにご本人様の意向を把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとにカンファレンス、モニタリングを行いご家族様に了解を頂いた上でご署名、捺印を頂いている。	毎月カンファレンス、モニタリングの実施と、3か月に1回介護計画の見直しを繰り返し、現状に即した介護計画を計画担当者が作成し、職員は周知・実践している。訪問不可の家族には電話での説明と郵送で状況理解の上、捺印を受け関係者間での情報共有を徹底している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日常生活記録をとり情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズになるべく対応できる様に、定期的に業務内容の見直しを図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外であっても受診を希望される場合は受診できるようにしえんしている。	従来の主治医に月2回往診を受けている人もいる。大部分の人が提携内科医の往診を月2回、歯科医は2週に1回の割合で往診と口腔ケアに来所している。他科受診は家族の協力を得ながら実施している。訪問看護師は月2回訪問し、利用者の健康チェックや介護者の相談に応じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が各ユニットへ週1回の訪問をしている。介護職員への報告、提案を行っている。24時間体制で緊急時の対応が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に情報の提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	方針については重要事項説明書に明記しており、契約時に説明を行っている。変化あった際主治医の見解をご家族様に説明している。こちらの可能、不可能なことは説明している。	事業所の方針は入居時に重要事項説明書及び資料に基づき説明をしている。経過中変化の折には主治医・家族・管理者・介護計画担当者の4者会議を設定し説明や話し合いを持ち合意・押印の上、終末期ケアに取り組んでいる。看取り迄を方針にしているがこの2,3年体験事例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに沿った研修を行い、毎日夕礼時にCPR呼称を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回火災訓練、災害時訓練、夜間想定訓練を行っている。自治会にも訓練の参加を呼び掛けています。	年3回、夜間想定を含めた防火防災訓練を実施している。防災対策マニュアル、緊急連絡網、伝達方法も整備され、地域のハザードマップも把握している。	備蓄品の用意もあるが、現在の保管場所が1階で水害時の浸水の懸念があるため、速やかな保管場所の変更を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様の自尊心を傷つけない様に尊重した声掛けを意識している。	利用者第一主義は法人方針で浸透している。人生の先輩・年配者を敬うこと、自尊心の尊重を念頭に声掛けも配慮している。時に不適切な対応を垣間見た折は必ず具体的に指摘の上、指導するようにしている。また、個人情報関連資料の保管は適切である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重して生活して頂ける様に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のペースで生活できるように心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の乱れに注意しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は管理栄養士が作成。調理は調理職員が行っている。食事量、水分量についても毎日記録している。また減塩食、ミキサー食、刻み食にも対応するようにしています。	職員の管理栄養士が献立を作成、契約スーパーより食材は毎日搬入され、調理専任職員が手作りで準備し提供している。一口程度の検食はしているが、利用者の重度化で食事介助時の安全考慮と職員の休憩時間確保で同席飲食はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサー、刻み、ソフト食と食事形態に対応している。食事量、水分量も毎日記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回、口腔ケアの声掛けを行い、可能な方にはご自分で行って頂き、困難な方についてはスタッフが口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄ごとに記録をつけ排泄パターンを把握している。極カトイレで排泄できるように支援している。	オムツ使用は18人中3名、他の利用者はリハビリパンツ12名、布パンツ3名である。おむつの人は夜間2時間ごとに観察、必要時交換をしている。また他の人は仕草や雰囲気ですぐまで誘導するなど自立に向けた排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供している。体操等身体を動かす機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上入浴できるようにスケジュールを組んでいる。	週に2,3回の午前入浴を基本としている。時には午後からのこともある。1対1介助としているが座位不可の人は2人介助で実施している。入浴拒否や異性介助不可の人は現在いない。体調を考えて日時変更をすることもあるが基本は遂行されている。時には入浴剤を選択使用することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や身体状況に応じて休息して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師と連携を図り薬の管理を行っている。変更がある場合は医療連携記録に変更理由を記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション、家事、散歩や買い物など生活に張り合いができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の思いをご家族様にお伝えし協力をお願いしている。協力が難しい場合は家族様に確認の上こちらで対応できるように検討している。	今夏は猛暑で外出は状況を考慮し、午前中あるいは夕方に近隣を散策するようにしていた。併設のデイサービスの休館日に、空車の送迎車を利用してドライブをするように工夫したり、家族の協力を得ながら外気に触れる機会を心がけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所にてお預かりして管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使用してもらったり、手紙を出すことについても支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置に留意して、過ごしやすい空間を心掛けている。	人の動線上に物を置かない。トイレの利用が多いこともあり、整理・整頓・清掃に留意するよう職員は心がけている。共用空間はシンプルで音・光・臭いなど不快、混乱を招くような刺激はない。多くの方が自室より、リビングで居心地よく過ごし、TV鑑賞や塗り絵などを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置、関係性に留意し快適に繰られるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具類は全て持ち込みして頂いている。使い慣れた家具を使用することで自宅に近い環境を再現できるように努めている。	利用者の部屋には、洗面台、クローゼット、エアコン、ベットが設置され防炎カーテン、各個人の私物は家族の協力を得ながら馴染みの家財道具を搬入している。当人の似顔絵、作品、写真などが飾られ寛げる生活空間づくりで自室を印象付ける創意工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札を付けたリトイレを表示するなど混乱を軽減できるよう工夫している。		